



倉敷市消防局と連携し、水島地区石油コンビナート総合防災訓練の災害告知の実証実験を行った。

- このシステムは、すでに免許されているコミュニティFM局の電波を利用して伝達するため、大規模なセンター装置（緊急信号発生装置）や、利用者側の工事などはほとんど不要で、従来にない次のような特長を有しています。
- ① 緊急告知FMラジオが、電源がOFFになっても、コミュニティFM局から発信する電波を受信して、自動的に電源がONとなり、大音量で放送が鳴り始める。
  - ② 自動的に放送が鳴り始めるだけでなく、同時にライトも点灯するため、聴覚障害者の方への告知にも有効。また、停電時や暗闇でも、ライトとして使用できる。
  - ③ 音が風雨に影響されず、家の中でも緊急告知放送を聴くことができる。

緊急告知FMラジオの特徴

ちに与えられたもう一つの大きな役割だと心に強く思った次第です。  
放送エリア内の方々の安全で安心な暮らしをお守りするという役割をより確実に果たすために、この「緊急告知FMラジオ」が生まれたのです。



緊急告知FMラジオ

このコミュニティ放送局が国民の注目を浴びて爆発的に増加したきっかけは、平成7年1月17日未明に発生した阪神・淡路大震災でした。  
神戸の街の一部が一瞬にして焦土と化し、多くの犠牲者を出した未曾有の災害で、災害発生当初には様々なメディアがその機能を十分に果たせない中、忘れられようとしていたラジオが思いもかけず注目を集めたのです。暗い夜の避難所で小さな携帯ラジオから流れる家族や友人の安否情報、救援物資やボランティア情報など、まさに今その地域で必要とされている情報が適切に且つ丁寧に放送され、数多くの被災者が勇気づけられたのです。

# 災害時は コミュニティメディアの出番

大久保 憲作  
代表取締役  
(株)エフエムくらしき

コミュニティ放送局とは

コミュニティ放送は平成4年1月に当時の郵政省により制度化されました。今から14年前のことです。同じ年の12月に、記念すべき第一局目が北海道函館市に開局し、それ以後、年により変動はあるものの順調に局数は増加し、平成18年4月1日現在では全国で188局が開局しています。

コミュニティ放送は地域の情報化という目的で開設されましたが、今やその目的だけではなく、地域の賑わいを応援したり、昨今活発になりつつある市民運動の情報交換の場となり、更には災害時に不可欠の地域情報インフラとしても大きく注目されています。このようにコミュニティ放送は、地域社会の発展にとって誠に有用な存在となりつつあります。

コミュニティ放送局と災害

このコミュニティ放送局が国民の注目を浴びて爆発的に増加したきっかけは、平成7年1月17日未明に発生した阪神・淡路大震災でした。

神戸の街の一部が一瞬にして焦土と化し、多くの犠牲者を出した未曾有の災害で、災害発生当初には様々なメディアがその機能を十分に果たせない中、忘れられようとしていたラジオが思いもかけず注目を集めたのです。暗い夜の避難所で小さな携帯ラジオから流れる家族や友人の安否情報、救援物資やボランティア情報など、まさに今その地域で必要とされている情報が適切に且つ丁寧に放送され、数多くの被災者が勇気づけられたのです。

緊急告知FMラジオの開発

このような各地の大規模な災害状況とコミュニティ局の活躍を見るにつけ、「もし災害の初期に避難勧告や指示などの重要な情報をもっと確実に住民に伝わっていたらどうであったか? おそらくより多くの人命が救われ、負傷者も少なかっただろう」と思ったのが、この「緊急告知FMラジオ」の開発動機でした。コミュニティ放送局は、毎日地域に密着した放送を行っています。だからこそ地域での災害に際して地域に合致した防災・災害情報をわかりやすく伝えることができるのです。また、それが私

- ④ FM局の電波を利用しており、災害時の情報伝達媒体として極めて有効である。また、FM電波の未到達エリアではCATVの利用も可能である。(コミュニティFM局が無い地域ではCATVのみでの利用も可能)
- ⑤ 485gと軽く、避難時に持ち運び可能であり、避難しながらも情報を聴くことができる。
- ⑥ お年寄りや子供に優しい丸みをおびたユニバーサルデザインで、素材はポリカーボネート(ラジオは通常ABS樹脂)を使用しており、防滴性や強度に優れている。
- ⑦ 基本回路が簡単なアナログ方式なので、故障がほとんどない、安心なシステムである。また、充電式バッテリーを内蔵しており、停電時でも動作が可能である。
- ⑧ 高価なセンター装置などは不要で、ラジオの価格は8,500円程度。一家で一台設置も可能な価格帯である。
- ⑨ 既にコミュニティFM局が免許を得ているので、新たな、難しい免許が不要である。
- ⑩ 普段は、当該地域のコミュニティFM専用ラジオとして様々な地域情報の入手が可能である。

現在までの実験と採用状況

この「緊急告知FMラジオ」は現在まで数度にわたり災害告知の実証実験を行っています。倉敷市では、岡山県や倉敷市、倉敷市消防局との連携による「水島地区石油コンビナート総合防災訓練」や、「災害時要援護者避難支援訓練」などに参加しました。その際、緊急告知FMラジオの緊急起動実験を行い、どちらも成功しています。その結果、倉敷市では今年度の当初予算として計上され、このラジオが市内の一部地域へ貸与されることが決まりました。また、新潟県長岡市においても予算化、今年度一部の地域にこのラジオを貸与することが決定されています。

今後の普及活動

このラジオは、平時は地域のコミュニティ放送局のプログラムを楽しみ、いざという時に緊急告知端末となるものなので、防災機器としてのメンテナンス費用はほとんどかかりません。本来、行政の役割である災害の緊急告知という分野で、民間の持ち主コミュニティメディアが公共の役割の一部を担うという画期的なシステムであり、この緊急告知FMラジオを自治体の防災システムの一部として採用することは、行政コストの大幅な削減につながるものと確信しています。また、自治体予算による配布に頼るだけでなく、地域の企業や各種福祉団体、NPOなどにこの仕組みを十分に理解していただき様々な角度からご利用いただくことにより、その地域での普及に大きくはみがつくと考えています。

この緊急告知FMラジオへのご意見やご質問などは左記までよろしくお願いたします。

株式会社 エフエムくらしき (担当 大久保憲作)  
〒710-8581  
倉敷市白楽町520-28  
電話 086-430-0660  
FAX 086-430-0667  
E-mail = fmk82@fline.jp  
詳しくはHP = http://www.fmkurashiki.com/